

第4回

小松市未来型図書館基本構想策定委員会

施設・蔵書規模の考え方について

2022年12月12日（月）

arg

塩尻市市民交流センターえんぱーく

長野県塩尻市

人口:66,631人(2022年11月) 面積:290.18km²

基本コンセプト

「知恵の交流を通じた人づくりの場」

保有機能

- 図書館
- 子育て支援・青少年交流
- シニア活動支援
- ビジネス支援
- 市民活動支援



施設規模

敷地面積:4,937m²

延床面積:11,902m²
(地下1階、地上5階建て)

蔵書規模

蔵書冊数:約41万冊

備考

—

田辺市文化交流センター たなべる

和歌山県田辺市

人口:69,904人(2022年10月) 面積:1026.91km²

目標

田辺市の文化力向上と、
周辺地域の活性化

保有機能

- 図書館
- 交流ホール
- 歴史民俗資料館
- 大会議室



出典) 田辺市文化交流センターたなべる | top <https://www.city.tanabe.lg.jp/tanaberu/>
(最終閲覧日: 2022年11月17日)

施設規模	敷地面積:8,578m ²	蔵書規模	蔵書冊数:約32万冊	備考	—
	延床面積:3,338m ² (地上2階建て)				

海老名市立中央図書館

神奈川県海老名市

人口:139,415人(2022年11月) 面積:26.59 km²

保有機能

- 図書館
- カフェ
- 書店
- 学習スペース
- テラス

出典) 海老名市立中央図書館 | top <https://ebina.city-library.jp/>
(最終閲覧日: 2022年11月25日)



施設規模

敷地面積:2,915m²

延床面積:3,660m²

(地下1階、地上2階建て)

蔵書規模

蔵書冊数:約35万冊

備考

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)による指定管理

安城市中心市街地拠点施設アンフォーレ(本館:安城市図書館情報館)

愛知県安城市

人口:188,810人(2022年11月) 面積:653.36km²

保有機能

- 図書館情報館
- ホール多目的室
- 証明・旅券窓口センター
- スーパーマーケット
- カルチャースクール



施設規模	敷地面積:12,305㎡	蔵書規模	蔵書冊数:約79万冊	備考	PFI事業
	延床面積:本館:9,193㎡ (うち図書館情報館6,808㎡) (地下1階、地上5階建て) ／南館:4,373㎡				

学びの杜ののいちカレード

石川県野々市市

人口:54,136人(2022年10月) 面積:4,185.66km²



基本理念

- 新図書館・市民学習センターを市全域を対象とした生涯学習の新たな拠点として「学びの杜ゾーン」に整備し、市民の学びと文化・芸術・創造、情報発信、市民協働におけるシンボルとして位置づける。
- 新図書館と市民学習センターの機能を一体的に捉え、それぞれの機能を連携させ、潜在的な利用者呼び起こし、市民による生涯学習活動を活発化させる。
- 当該施設だけではなく、続いて整備される「にぎわい交流ゾーン」の施設をはじめ、近隣の大学や学校、生涯学習施設等との協力・支援・連携を積極的に行い、それぞれの特徴となる機能を活かしながら効果的な運営を行う環境づくりを行う

保有機能

- 図書館
- 市民学習センター
 - ・ キッチンスタジオ
 - ・ 音楽スタジオ
 - ・ 会議室 等
- 憩いの広場
- カフェ

施設規模

敷地面積:18,823 m²

延床面積:5,696 m²
(地上2階建て)

蔵書規模

蔵書冊数:約20万冊

備考

PFI事業

須賀川市民交流センター tette

福島県須賀川市

人口:73,800人(2022年10月) 面積:279.43km²

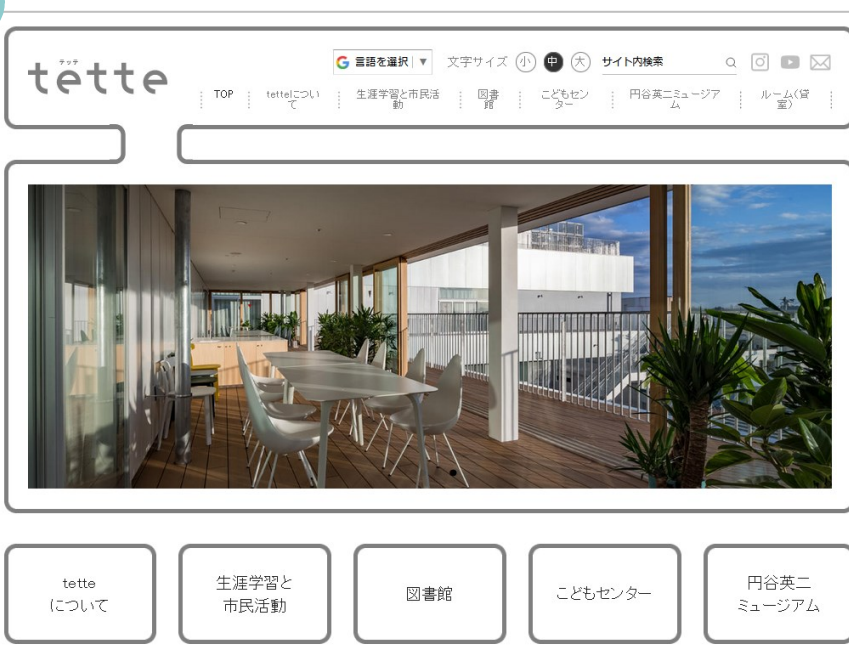
保有機能

- 図書館
- 生涯学習・市民活動支援
 - ・ スクール・イベント・シネマ
 - ・ 市民活動サポートセンター
 - ・ パートナースクラブ
- こどもセンター
 - ・ 屋内あそび場
 - ・ 子育て支援センター
 - ・ 預かりルーム
- 円谷英二ミュージアム
- ルーム(貸室)
 - ・ ホール
 - ・ 多目的室
 - ・ キッチン
 - ・ 交流スペース・テラス
 - ・ 学習ルーム
- カフェ

コンセプト

～ 人を結び、まちをつなぎ、情報を発信する場の創造 ～

- ・ だれもが気軽に集い、語り合える人と人との出会い・交流の場(交流の拠点)
- ・ 様々な情報を知ることができ、ともに学び、育てあう場(知と学びの拠点)
- ・ まちの歴史、文化、観光、市民活動などの情報を発信する場(情報発信の拠点)
- ・ まちの魅力、資源を再発見する場(気づきの拠点)
- ・ まちを元気にする活動を支援する場(市民活動支援の拠点)
- ・ まちの新しい魅力、須賀川らしさを創り出す場(魅力創造の拠点)



出典) 須賀川市民交流センター tette | top <https://s-tette.jp/index.html>
(最終閲覧日: 2022年11月17日)

施設規模

敷地面積:7,724m²

延床面積:13,699m²
(地上5階建て(一部地下機械室あり))

蔵書規模

蔵書冊数:約24万冊

備考

震災からの創造的復興の実現を図るため、復興交付金を活用し、整備が進められた。

中心市街地中核施設「Mallmall」

宮崎県都城市

人口:158,731人(2022年11月) 面積:653.36km²

保有機能

■ 図書館

- ・ カフェショップ
- ・ プレススタジオ
- ・ ホール
- ・ プロジェクトスタジオ 等

■ 未来創造ステーション

- ・ セミナー室や多目的室
- ・ 創業支援等を進める交流センター
- ・ ワーキングスペース

■ まちなか広場(全天候型の多目的広場)

■ まちなか交流センター

- ・ 会議室
- ・ 「まちなかキッチン」
- ・ 多目的室

■ 保健センター

■ 子育て世代活動支援センター「ぷれぴか」

- ・ 地域子育て支援センター
- ・ 乳幼児の一時預かり
- ・ 親子への遊び場の提供 等



出典) 中心市街地中核施設「Mallmall」 | top <http://mallmall.info/index.html>
(最終閲覧日: 2022年11月17日)

施設規模

敷地面積:5,366km²

延床面積:8,046km²
(未来創造ステーション部分は除く)

蔵書規模

蔵書冊数:約51万冊
※パンフレット表記:
約30万冊

備考

都城まちづくり株式会社
による指定管理

那須塩原市図書館 ゐるる

栃木県那須塩原市

人口:114,822人(2022年11月) 面積:592.74km²

保有機能

- 図書館
- 会議室
- 展示室
- ラボ
- ホール
- 行政窓口
- 観光案内所

従来の図書館としての役割を
より充実したものとするに加え、多様な読書環境を提供し、
図書館利用によるコミュニケーション及び交流の促進を図る施設



施設規模

敷地面積:3,970m²

延床面積:4,957m²
(地上2階建て)

蔵書規模

蔵書冊数:約15万冊

備考

株式会社図書館流通
センター(TRC)による
指定管理

図書館等複合施設「まちやま」

新潟県三条市

人口:93,648人(2022年10月) 面積:432.01km²

コンセプト

学ぶ、見る、触れる。
ものづくりのまちの図書館等複合施設

保有機能

【主な機能】

- 図書館機能(学ぶ)
- 鍛冶ミュージアム機能(見る・触る)
- 科学教育センター機能(学ぶ)

【その他の機能】

- カフェ&レストラン
 - ・ bibliothèque café Aï-DA
 - ・ 三条スパイス研究所

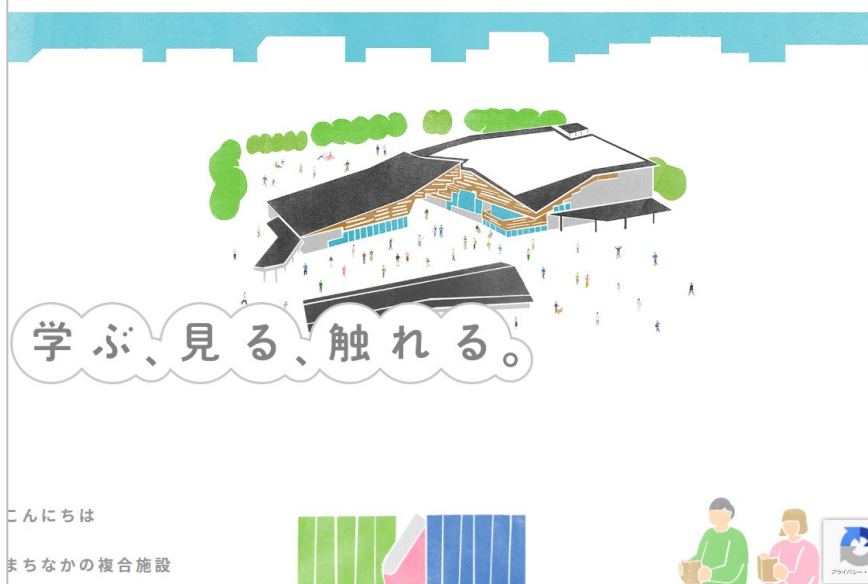
■ レンタルスペース

- ・ サイエンスホール
- ・ サイエンスラボ
- ・ 会議室
- ・ ステージえんがわ
- ・ 屋外広場

■ えんがわ

- ・ グランド広場
- ・ ステージえんがわ
- ・ みんなのステージ
- ・ ラボ広場
- ・ 通りドマ

まちやま



出典) まちやま | top <https://sanjo-machiyama.jp/>
(最終閲覧日: 2022年11月17日)

施設規模

敷地面積:13,613m²

延床面積:5,113m²
(地上3階建て)

蔵書規模

蔵書冊数:約28万冊

備考

—

先行施設一覧

施設名称	自治体 (人口)	開館年	機能	施設規模		蔵書規模 (全市冊数)	図書館費 (資料費) ※R3予算額
				敷地面積	延床面積		
小松市立図書館 (本館)	石川県小松市 (約10万6千人)	1981年	図書館	1,134㎡	1,840㎡	約20万冊 (約28万冊)	49,975千円 (20,711千円)
塩尻市市民交流 センターえんぱーく	長野県塩尻市 (約6万7千人)	2010年	図書館、子育て支援・青少年 交流、シニア活動支援、ビジ ネス支援、市民活動支援	4,937㎡	11,902㎡ (地下1階、地上 5階建て)	約41万冊 (約50万冊)	222,773千円 (36,017千円)
田辺市文化交流 センター たなべる	和歌山県田辺市 (約7万人)	2012年	図書館、交流ホール、歴史民 俗資料館、大会議室	8,578㎡	3,338㎡ (地上2階建て)	約32万冊 (約45万冊)	67,451千円 (23,653千円)
海老名市立 中央図書館	神奈川県海老名市 (約13万9千人)	2015年 (リニューアル)	図書館、カフェ、書店、学習 スペース、テラス	2,915㎡	3,660㎡ (地下1階、地上 2階建て)	約35万冊 (約46万冊)	379,257千円 (27,396千円)
安城市中心市街地 拠点施設 アンフォーレ	愛知県安城市 (約18万8千人)	2017年	図書情報館、ホール多目的 室、証明・旅券窓口センター、 スーパーマーケット、カル チャースクール	12,305㎡	本館:9,193㎡ (図書情報館6,808㎡) (地下1階、地上5階建て) ／南館:4,373㎡	約79万冊 (約116万冊)	112,859千円 (51,000千円)
学びの杜 のいちカレード	石川県野々市市 (約5万4千人)	2017年	図書館、生涯学習センター (スタジオ・会議室)、憩いの 広場、カフェ	18,823 ㎡	5,696 ㎡ (地上2階建て)	約20万冊 (約22万冊)	328,259千円 (一)
須賀川市民交流 センター tette	福島県須賀川市 (約7万3千人)	2019年	図書館、生涯学習・市民活動 支 援、こどもセンター、 ミュージアム、ルーム(貸室)、 カフェ	7,724㎡	13,699㎡ (地上5階建て(地下機械室あ り))	約24万冊 (約37万冊)	91,174千円 (32,794千円)
中心市街地中核 施設「Mallmall」	宮崎県都城市 (約15万9千人)	2019年	図書館、未来創造ステーショ ン、まちなか広場・交流セン ター、保健センター、子育て 世代活動支援センター	5,366km ²	8,046km ² (未来創造ステーション部分 は 除く)	約51万冊 ※パンフレット :約30万冊 (約63万冊)	273,281千円 (30,895千円)
那須塩原市図書館 みるる	栃木県那須塩原市 (約11万5千人)	2020年	図書館、会議室、展示室、ラ ボ、ホール、行政窓口、観光 案内所	3,970㎡	4,957㎡ (地上2階建て)	約15万冊 (約33万冊)	99,677千円 (27,471千円)
図書館等複合施設 「まちやま」	新潟県三条市 (約9万4千人)	2022年	図書館機能、鍛冶ミュージア ム機能、科学教育センター 機能等	13,613㎡	5,113㎡ (地上3階建て)	約28万冊 (約53万冊)	37,000千円 (24,000千円)

※図書館費(資料費)については分館含む市全体の予算を記載

「未来型図書館のあり方に関する調査研究報告書【令和3年度】」記載内容

- ✓ 現在の小松市立図書館(本館)は、昭和56年の建設から40年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。
- ✓ 館内は手狭であるため、蔵書の増加に伴い閲覧や学習スペース、読み聞かせや講座を開催するためのスペースが不足している。静かな空間で読書・学習に集中したい方、会話を楽しみ、くつろぎながら過ごしたい方など、それぞれのエリア区分にも対応できていない状況。
- ✓ 蔵書の収容能力も限界であるため、開架・閉架書庫ともに蔵書があふれている状況。
- ✓ 専用駐車場は一般用30台、車いす専用2台ありますが、利用者の多い時には駐車待ちが発生することもある。施設から道路を挟んだ離れた位置にあり、雨天時の利用が不便であることや車いすでの利用に際し課題となっている。

次年度以降より詳細な検討を行う際に考慮しておくべき観点

➤ 立地・事業手法との連動した条件整理・検討

- ・ 本事業で可能な施設規模は、次年度検討を深め選択を行っていく立地・事業手法によって、その条件は影響を受ける。
立地選定、事業手法の検討、施設規模の効果的な在り方を、それぞれ連動して検討を進めていく必要がある。
※今年度時点での事業手法の可能性については、【資料3】にて説明。

➤ 導入機能との関係性

- ・ 未来型図書館が、ビジョン・コンセプトを実現するためにその機能(本資料p.7で示した役割(機能))を空間としてどのようなかたち、バランスで導入していくことが最も効果的かの検討が必要となる。

➤ 地域のなかでの面としての検討

- ・ 未来型図書館整備にあたっては、単体の施設としてだけではなく、市内における既存施設の有する機能と状況を踏まえ、集約・複合化もしくは連携による可能性も含め、地域での体験をどのように生み出していくか、面としての検討の必要がある。

「未来型図書館のあり方に関する調査研究報告書【令和3年度】」記載内容

- ✓ 施設の蔵書収容能力が限界であることから、蔵書を増やすためには、必要な除籍を行う必要がある。県内市町や類似団体と比較しても人口1人当たり蔵書数は少ない状況にあるが、蔵書数拡大への対応が困難。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、急速なデジタル化が進んでいる。全国的にも電子図書館の普及が進んでいる状況にあり、今後、コンテンツの充実の状況を見ながら、来館が困難な方や新たな利用者層の獲得の観点から導入についての検討を行っていく必要がある。
- ✓ 図書館では、市史の編纂に伴う貴重な郷土資料が多くある。資料は紙媒体で保存されていることから、デジタル保存・公開を行うことで研究などの活用や歴史・文化の伝承につなげていくことも課題。

次年度以降より詳細な検討を行う際に考慮しておくべき観点

➤ 現時点での目標

- ・ 県内市町や類似団体と比較し、人口一人当たりの現状の市立図書館の蔵書量は少ない状況にあり、整備にあたり蔵書数拡大を図っていく必要がある。ただし、先行施設の蔵書冊数からも読み取れるように、蔵書規模の充実のみが「未来型」を表すものではなく、蔵書規模、また事業規模について、以下の観点と合わせて検討を行っていく必要がある。

➤ 「未来型図書館」のとらえる“情報”

- ・ 施設が扱っていくべき情報は、紙の資料に限らずデジタルの情報も含み、また、地域に存在する文化、観光、まちに存在する“人”等まちに存在するリアルな資源も重要な地域資料として捉えることができる。未来型図書館が人々の“知る”体験を支えるための情報そのものあり方も含めた検討の必要がある。

➤ 情報との接続・出会い

- ・ 情報や知識への多様なアクセスを保障し、その利用体験機会を地域全体に広げていくための環境や仕組みづくりについての検討も重要な観点となる。